

## 新型コロナウイルス感染症に係る市保健部の対応について

### (1) 保健所の対応

新型コロナウイルス感染拡大に伴い増大する保健所業務に対し、管理システムの導入や搬送業務の委託化を行い、職員の負担軽減に努めながら患者等に対応している。

#### ア 電話相談

新型コロナウイルス感染症に関する相談、診療・検査医療機関の案内

#### イ 受診調整、検体搬送等

新型コロナウイルス感染症の疑いのある方に対し、帰国者・接触者外来等への受診調整を行うほか、検体回収や必要に応じた移送調整を行なっている。

#### ウ PCR検査

保健所の検査施設において迅速にPCR検査を実施している。また、感染リスクの高い施設や集団に対しては、検査対象者を幅広く捉え検査を実施している。

#### エ 陽性者対応

- ・発生届の受理
- ・積極的疫学調査の実施
- ・陽性者の移送（入院・宿泊療養施設）

#### オ 陽性者等の健康観察等

- ・自宅療養者、濃厚接触者の健康観察
- ・入院先や宿泊療養施設への病状確認
- ・自宅療養者への配食サービス及びパルスオキシメーターの貸し出し

#### カ 報道対応等

感染状況について、川口記者クラブ加盟の新聞社やテレビ局へ公表し、併せて、市ホームページへ掲載している。

### (2) 保健所の体制

第1波の感染拡大から保健部職員を増員するとともに、他部局の保健師や事務職の職員を動員し、全市を挙げて対応にあたっている。

《人員体制の推移》

- ・第1波拡大期 50人
- ・第2波拡大期 64人

- ・第3波拡大期 80人
- ・第4波拡大期 60人 ※令和3年4月から新型コロナウイルス感染症担当を配置

### (3) 新型コロナウイルスワクチン接種の状況

令和3年2月1日付で設置した新型コロナウイルスワクチン接種推進室は、22人体制（7月15日現在）で接種事業を進めている。

#### 1) 接種実施体制

接種予約の受付及びワクチン接種に関する問い合わせ等に対応するため、3月1日にコールセンターを開設した。

5月11日から、市内5カ所の集団接種会場及び約140の個別医療機関で接種を開始した。6月15日以降は集団接種会場を「旧そごう川口店」に集約し、同時期に5か所の大規模病院及び13か所の有床病院での接種を実施している。

#### 2) 接種券の発送状況

4月26日から段階的に接種券を発送し、7月15日時点で50歳以上の対象者約26万人に発送した。

対象者	発送日	対象人数
65歳以上の高齢者	4月26日	約14万人
60～64歳の方	6月11日	約3万人
55歳～59歳の方	6月21日	約3.9万人
50歳～54歳の方	6月28日	約4.9万人

<国の基準により申請に応じて接種券を発送する対象者>

- ・基礎疾患を有する者
- ・高齢者施設等の従事者

<市独自の優先枠として申請に応じて接種券を発送する対象者>

- ・コロナ対応医療機関の医療従事者の同居家族
- ・小・中学校の教職員等
- ・保育士、認定こども園、幼稚園教諭等
- ・市内企業従事者及びその同居配偶者

#### 3) ワクチンの到着箱数

4月18日に2箱（1,950回接種分）のワクチンが初めて届き、7月15日時点では合計343箱（約40万回接種分）が到着した。

4) 接種状況（7月15日時点）

	全体	うち高齢者
1回目を終えた方（接種率）	141,647人（25.3%）	105,806人（73.1%）
2回目	78,954人（14.1%）	68,086人（47.0%）

5) 接種を加速化するための市内医療機関に対する川口市独自の支援5月11日以降接種分から実施

- ①診療所・病院に対し、接種1回あたり2,000円の臨時協力金を支給
- ②予約システムの構築・改修や臨時スタッフの増員などの追加費用補助金  
（6月または7月）  
月1,000回以上接種 300万円  
月1,000回以下接種 100万円
- ③ワクチン接種体制に関係した職員に対する特別手当等の原資を補助  
（6月または7月）  
月3,000回以上接種 1,000万円  
月1,000回以上接種 300万円
- ④集団接種会場に派遣される医師に対する協力金の増額

	午前 （9時～12時）	午後（13時～16時 又は14時～17時）	夜間 （18時～21時）
平日	4万円（既定）	4万円（既定）	6万円【新設】
土・日 祝日	6万円【+2万円】	6万円【+2万円】	8万円【新設】

(4) 新型コロナウイルス感染症の発生から現在までの対応経緯

別添の資料「新型コロナウイルス感染症の発生から現在までの対応経緯」  
をご覧ください。

なお、別添の資料については、次のとおり解説します

解説

令和2年1月、新型コロナウイルス感染症の罹患が国内で初確認され感染拡大が懸念される中、本市では、いち早く注意喚起ポスターを作成するなど、市民への迅速な情報提供及び注意喚起に努めました。また、外国人が多い本市の特性を考慮し、ポスターを日本語版のほか英語や中国語に翻訳し、市内各駅や飲食店、商業施設などに配布いたしました。

令和2年2月、市民から幅広く相談を受けるため、新型コロナウイルス感染症相談電話を開設するとともに、全市合同町会長会議において、感染症予防に対する基本ルールを説明し注意喚起を行いました。また、新型コロナウイルス感染症に対し組織的に対応するため、川口市新型コロナウイルス対策本部会議を設置いたしました。

令和2年3月、検査体制を整え、PCR検査を開始いたしました。

令和2年4月、本市においても感染者が急激に増えはじめ、国から緊急事態宣言が発出される中、新型コロナウイルス感染症対応チームの編成及びドライブスルー方式による川口市PCR検査センターを設置いたしました。

令和2年5月、各医療機関での検査体制を整備するとともに、対応協力医療機関への補助金を創設いたしました。

令和2年7月、日々の感染状況を市民等に伝えるため、新型コロナウイルス感染症対策サイトを開設いたしました。

令和2年8月、国内で接待を伴う飲食店でのクラスター感染が頻発し、これを受け本市では「夜の街関連PCR検査事業」を実施いたしました。また、保健所の体制強化を図るため、各部局からの職員応援体制を構築し、通常配置32人のところ、感染状況をみながら最大80人まで増員を行いました。

令和2年9月、事務の効率化を図るため、新型コロナウイルス感染症管理システムを導入いたしました。

令和2年11月、自宅療養者に食事の配送を開始いたしました。

令和3年1月、いわゆる第3波の到来を受け、1都3県に2度目の緊急事態宣言が発出され、2月には医療従事者にワクチン接種が開始されました。本市においても新型コロナウイルスワクチン接種推進室を設置し、3月にはコールセンターを開設いたしました。

令和3年4月、感染が再び広がりを示す中、本市では、無症状の感染者をいち早く察知するため「川口市PCR検査実施事業」を市長専決により決定し、5月と6月に川口市総合文化センターリリアの展示ホールにて、唾液によるPCR検査を実施いたしました。なお、検査結果につきましては、被験者2,081人全員が陰性でございました。

令和3年5月、市内5か所の集団接種会場及び約140の個別医療機関にて、65歳以上の高齢者へのワクチン接種を開始いたしました。

令和3年6月、ワクチン集団接種会場を旧そごう川口店1か所に集約することで、1日あたりの接種対象者数を拡大いたしました。

新型コロナウイルス感染症に係る対応経緯

令和2年1月～9月

世界・国内の動き	本市の対応	陽性者数※2
<b>令和2年1月</b> 武漢市閉鎖 国内感染初確認	注意喚起ポスター2万枚配布	
<b>2月</b> ダイヤモンドプリンセス号乗客の感染確認	新型コロナウイルス感染症相談電話開設 全市合同町会長会議にて感染症予防の基本ルールについて説明 川口市新型コロナウイルス対策本部会議設置	
<b>3月</b> 小中高全国一斉休校 WHOパンデミック宣言	保健所PCR検査開始	17人
<b>4月</b> 緊急事態宣言	新型コロナウイルス感染症対応チームの編成 川口市PCR検査センター設置	58人
<b>5月</b> 緊急事態宣言解除	検査可能医療機関との契約開始 対応協力医療機関への補助金創設	13人
<b>6月</b> 世界累計死者50万人		17人
<b>7月</b> 接待を伴う飲食店でのクラスターが頻発	市内各部局より職員を参集 新型コロナウイルス感染症対策サイトの開設	90人
<b>8月</b> 国内感染者6万人	夜の街関連PCR検査事業 唾液によるPCR検査医療機関の整備	111人
<b>9月</b> 管内閣発足	新型コロナウイルス感染症管理システム導入	31人

※1 報道において、いわゆる「第1波」として感染状況が報じられていた期間

※2 市保健所で公表した陽性者の数

# 新型コロナウイルス感染症に係る対応経緯

令和2年10月～令和3年6月

